

國分秀一さん

Hidekazu Kokubu

● 移住地 / 豊富町(千葉県出身)

アトピーで離職し、療養生活に専念した経験がある。北海道に移住し帯広や札幌で暮らした後、アトピーの経験が役に立てばと皮膚病治療の湯治客が多い豊富温泉がある豊富町と縁を持ち定住。非常勤職員として豊富町役場に勤務しながら、地域のことを勉強しています。

アトピー性皮膚炎で仕事を離れたことをきっかけに人が密集していない北海道への移住を決断。

充実した田舎暮らしには生活基盤が最重要。

アトピーの経験に縁を感じ豊富温泉のある豊富町に移住

北海道に移住する前は千葉県に住んでいました。東京の会社に勤めていましたが、アトピー性皮膚炎の症状が悪化したことから治療に専念するため平成17年に退職しました。クリニックに通いながら自宅療養を続け、数年かけて症状が改善したことから再就職を考えるようになりました。人の過密さに疲れ、千葉県から東京へ通勤する暮らしはもうしたくないという気持ちがあり、広くて自然環境に恵まれた北海道へ思い切って移住することを決めました。札幌や帯広など道内に1ヶ月間生活する中で“豊富温泉”がある豊富町のことを思い出しました。ここの温泉はアトピーを始めとする皮膚病の治療を目的に全国から湯治客が集まる温泉で、自分もアトピーで苦しんだことがあることから縁を感じ、平成23年の2月に豊富町を訪ねました。温泉に入りながら温泉地域の人々と交流を重ねて行くうちに自分の苦しみを理解し受け入れてくれる方が多いことを実感し、このまちに住むことを心に決めました。その年の12月に役場の非常勤職員として採用していただき、このまちで暮らすことができるようになりました。自宅も温泉街の一戸建て住宅を貸していただき生活しています。



國分さんが勤務する豊富町役場 木立に囲まれた國分さんの自宅



湯治客が利用する日帰り入浴施設ふれあいセンター



人のつながりと自然環境が良いけれど田舎暮らしに仕事が必要なキーワード

役場の担当は商工観光課商工観光係で、電話応対や外回り、イベント対応など幅広い仕事です。また豊富温泉では湯治客が利用する自炊宿“湯快(ゆかい)宿”や日帰り入浴施設“ふれあいセンター”で、湯治客や関係者とコミュニケーションを図っています。アトピー経験が少しでも役に立てばという思いと、多くの方と出会う中で地域の考え方や暮らし方を学ぼうという気持ちで毎日を過ごしています。自然が豊富なこともこの地域の魅力で、モーツァルトやブルックナーを聞きながら、広大な牧草地や遠くに浮かぶ利尻富士を眺めるのが気に入っています。

人と人のつながりが良く静かな環境ですが、仕事先は決して多くはないのが現状です。資格や技能を持っていない場合は仕事がなかったり、生活が安定しない可能性もあります。生活基盤ができるまでの暮らしを支えるくらいの蓄えを準備することもお勧めします。楽園のように見える田舎暮らしですが、一人では生きてゆけません。地域の活動やつきあいに積極的に参加して、人間関係を大切にすることや、地域の考え方や風習を受けとめて暮らしに溶け込むことも大事だと感じます。

【豊富町からの一言】現在、豊富町には数組移住されている方がおりますが、役場の臨時職員としてお勤めの國分さんのほか、豊富温泉街内に設置している温泉コンシェルジュデスクで活躍して頂いている方もおります。町外出身者の方々の地元に対する新たな視点は、将来、豊富町の観光行政だけではなく北海道全体の観光行政を発展させる重要なものと考えております。



空気が澄んだ日には遠く利尻富士が望める牧草地帯



豊富温泉街